

令和6年能登半島地震災害対応本部の設置について

2024年1月1日、能登半島北部を震源とする令和6年能登半島地震が発生しました。震災の犠牲となった方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

令和6年能登半島地震は、家屋倒壊、津波、火災等が輻輳し、多くの犠牲者を出した災害であるにもかかわらず、半島という地形条件に加え、被害の大きな地域を結ぶ交通通信手段が随所で寸断されており、地震発生後数日を経た現在なお、被害の全貌は明らかにされていません。

こうした状況をふまえ、私ども日本地理学会では、2019年の台風19号に次いで災害対応本部を立ち上げました。すでに地震発生直後から、学会会員である専門家が現地で、あるいは航空写真等を通じて緊急調査を開始し、今回の震災の被害状況の正確な把握を進めるとともに、震災の発生メカニズムや被害の拡大要因などを科学的見地から究明しようと努めています。災害対応本部は、主に学会会員から提供される学術的情報を集約し、信頼できる情報を発信していくことを使命とするものです。

日本地理学会では、自然科学と人文・社会科学の双方に軸足を置く地理学の特徴を活かして、今回の災害の検証に加えて、防災・減災、復興に向けた政策的提言を積極的に進めて参ります。具体的には、ホームページや学会大会時のシンポジウム等の機会を通じて、現地報告を含めた研究成果を公開し、各種の提言を発信していく所存です。今後とも、私ども日本地理学会の活動に関心をお持ちいただくとともに、ご理解ご協力を賜れば幸いです。

2024年1月4日

令和6年能登半島地震災害対応本部長 箸本健二